



食の、安全と、安心のために。



当会は、「日本と世界の食と農業へ貢献」を目指し活動している非営利の任意団体です。
食料安定供給に貢献する作物保護の役割と農薬の安全性について正確な情報を提供しています。
農薬をご使用になる方々へ、農薬の正しい情報を提供し、適正使用を推進しています。

クロップライフジャパン
(旧 JCPA 農薬工業会)

ごあいさつ

近年、世界は気候変動、人口増加、食料安全保障、環境保全など、多くの課題に直面しています。これらの課題は、農業分野においても大きな影響を与えており、持続可能な農業への転換が求められています。また、日本では、食料安全保障を確保していく中で、農業分野で生産者の高齢化、担い手不足など、さまざまな課題に直面しているため、改正食料・農業・農村基本法に基づき新たな基本計画が策定されました。そして農業現場では、適切な作物保護に寄与する新規農薬とともにスマート農業や総合防除に利用できる新技術への期待が高まっています。

2024年5月に当会では、食料・農業、環境、消費者を対象とした「将来のありたい姿」、それを実現するための「活動指針」からなる新ビジョンを公表するとともに、グローバルな潮流にそって、当会名称をクロップライフジャパン (CropLife JAPAN) に変更しました。当会は、新ビジョンのもと、作物保護にかかわる革新的な技術の開発と普及、ステークホルダーとの連携強化を通じて、農業の持続的な発展を図り、日本と世界の食と農業へ貢献してまいります。

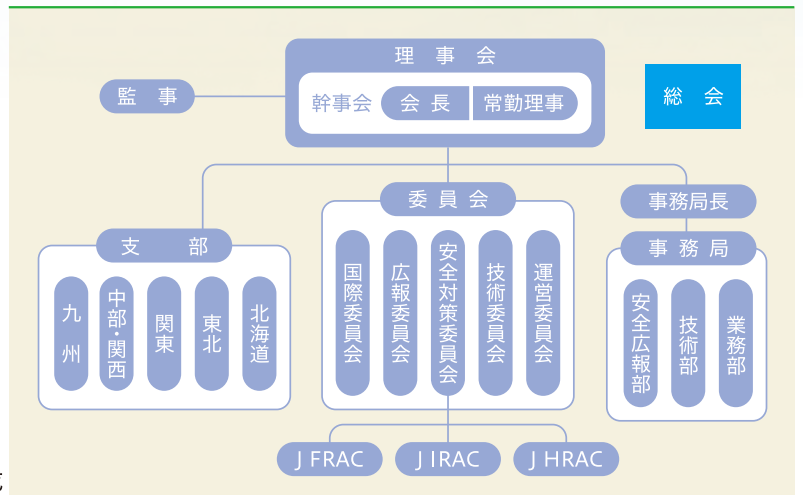


クロップライフジャパン会長
岩田 浩幸

歴史

1946年	農薬の検査・統制を目的に 農薬協会が設立される
1953年	農薬協会が農薬工業会と (社)日本植物防疫協会に分割される
2022年	名称に英名を追加(Japan Crop Protection Association、略称JCPA)
2024年	新ビジョンを公表 名称をクロップライフジャパン (英名:CropLife JAPAN)に変更
2025年	4月現在、正会員(農薬製造企業)34社 賛助会員(商社・副資材製造企業等)46社で構成

組織



国際連携活動

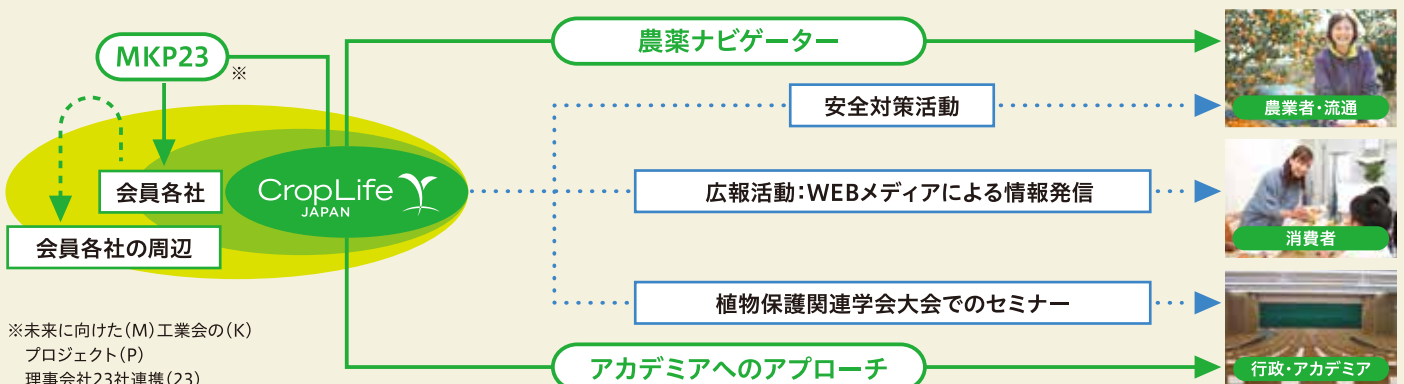
- 農薬輸出入に関する法令順守事項等、会員への周知と順守の徹底。
- 世界動向を把握し、アジア諸国における重要案件に関する課題の解決を図る。

技術関連活動

- 農薬に係る技術的諸課題に関する情報を収集し、所管官庁と意見交換を行い、会員へ情報提供する。

発信情報のポイント

- ①食料生産の重要性 ②農薬の役割 ③科学的データによる安全性の確保
- ④農薬の適正使用 ⑤環境への配慮 ⑥技術のイノベーション ⑦薬剤抵抗性管理



広報活動

消費者・教育関係者・メディアに対し、農薬についての正しい知識の普及啓発

ホームページの充実

2025年にコンテンツを見やすくリニューアル。
若い世代、知的探求層向けの新規コンテンツを追加。

食・環境・作物保護・テクノロジーに関連する情報の充実。



消費者への活動

■ホームページでの動画発信

・動画ギャラリー

動画を見てクイズに答えよう、役割編、安全性編、ミニドラマを掲載。

・「Crop Tech Innovation」動画

過去から将来に向けてのグローバルな技術イノベーション動画を掲載。

■WEBメディアによる情報発信

・Webメディア「QuizKnock」

「実力が知られていないもの円卓会議」開幕！
思い込みをひっくり返されること間違いなし！

・YouTube対談動画

伊沢氏とCLJapan岩田氏による対談。
食と農を身近に捉えて頂ける内容です。



■新聞等報道への対応

誤解に基づく記事にはホームページに
当会の見解を掲載。

■小学生向け情報発信

・Gakkenの小学生向け
学習漫画に協力



安全対策活動

農業関係者の方々に対し、農薬の正しい情報を提供し、農薬の適正使用の推進

農薬適正使用啓発等の資料配布

■「農薬の正しい使い方」DVDとリーフレット

DVD内容はホームページ「農薬をご使用になる方へ」に掲載。

リーフレットは植物防疫関係者・団体に無償配布。

2023年度19万部、2024年度24万部を提供。



農薬に関する正しい理解の増進活動

■専門講師の派遣

農薬の安全使用指導のための研修会に専門の講師を派遣、2023年度211件、2024年度232件の実績。



■農薬でんわ相談

農薬使用者からの相談に対応、2023年度は231件、
2024年度は335件の実績。

講師派遣・農薬でんわ相談

公益社団法人 緑の安全推進協会
TEL 03-5209-2512

■農薬についてよく尋ねられる質問

内容はホームページ「教えて！農薬Q&A」
に掲載。

■薬剤抵抗性管理活動

RACコードを利用したローテーション防除
についての周知活動を実施。



■「なるほど! なっとく! 農薬のABC」動画

農薬とは何? 農薬がどのように私たちの食生活に貢献しているかを解説した動画を掲載。



NEW VISION



将来のありたい姿＝目標

1. 日本と世界の食料安全保障、持続可能な農業に貢献します
2. 環境にやさしいイノベーションを推進します
3. 安全の先にある安心な食生活を楽しめる社会を目指します

活動指針＝目標を実現する方法

- (1) 日本の農業生産性向上と農産物の輸出拡大、世界の農産物需要に対応した作物保護技術を提供します
- (2) 環境を守るための技術革新とカーボンニュートラルに取り組みます
- (3) 社会の信頼を確保するため、適正な農薬使用の推進と科学的な情報発信を行います
- (4) 上記活動の核となるイノベーションを創出する人材の育成に努めます

食の未来のために。

2014年「JCPA VISION 2025」策定から10年が経ち、食料や農業をめぐる状況・事業環境の変化を踏まえてこれまでの取組みを検証し、2024年5月にNEW VISIONを公表しました。新たなビジョンに沿ってSDGsと連携し、将来のありたい姿の実現に向けて取り組みます。






ビジョン活動とSDGsとの関連付け

ビジョン活動では、作物保護の役割について正しい理解を促進・共有しています。

作物保護の役割は

 2 飢餓をゼロに	【飢餓をゼロに】 農作物の収量・品質の確保で貢献する。
 3 すべての人に健康と福祉を	【すべての人に健康と福祉を】 カビ毒リスクの軽減で健康に寄与する。
 8 働きがいも経済成長も	【働きがいも経済成長も】 効率化・安定化により農業を成長産業に。
 15 陸の豊かさも守ろう	【陸の豊かさも守ろう】 農耕地の拡大を抑えることで緑を守る。

当会活動の役割は

 9 産業と技術革新の基盤をつくろう	【産業と技術革新の基盤をつくろう】 新技術や製品の創出で基盤づくりに繋げる。
 12 つくる責任 つかう責任	【つくる責任 つかう責任】 農薬の適正使用を通してサポートする。
 17 パートナースhipで目標を達成しよう	【パートナーシップで目標を達成しよう】 消費者への啓発を通じて達成を目指す。